土木学会地震工学委員会
耐震基準検討小委員会　第 28 回委員会議事録

1.日時：平成 13 年 11 月 27 日　14:00－16:00
2.場所：土木学会 B 会議室
3.出席者：18 名

4.配布資料
1） 耐震基準小委員会 第 27 回議事録(案)
2） 耐震基準小委員会　委員名簿(新規)
3） 土木構造物の耐震設計ガイドラインに関する講習会収支

5.議事内容
1) 耐震基準小委員会 第 27 回議事録(案)の確認
耐震基準小委員会 第 27 回議事録(案)について沢野委員から説明が行われた.
修正点：出席者のうち澤田氏は前回の時点では大町委員の代理として参加
（大町委員に参加の○と(代理：澤田)を追加，出席者の澤田を削除）
上記を修正し，それ以外については問題なく内容が確認された.
2)委員会の新体制
新規の名簿をもとに，新規委員を含め，各委員の自己紹介を行った.
3)土木構造物の耐震設計ガイドラインに関する講習会報告
11 月 16 日に開催された上記講習会に関して，参加者 155 名に加え学生の参加もあり盛況であったことが報告された.
また，以下の 2 点が了承された.
a)報告書の残部 30 部は地震工学委員会の親委員会や他委員会などの委員に配布し意見をもらう.
b)収支結果としての 25 万円の残高は，以下の 3 点に当てることが了承された.
・広く意見を求めるためのガイドラインの増刷に当てる.
・主要な設計指針で土木学会図書館にないものの購入に当てる.
(学会の図書館にないものは幹事団でリストアップして購入する)
・ネットワーク上で意見交換の場を設けるための費用に当てる.
(幹事団で可能性も含めて検討し報告する)
4)今後の委員会活動について
幹事団で協議した中から出た意見として以下の 4 つの項目が紹介されそれをもとに審議を行った.
a) ガイドラインの維持更新
b) ガイドライン改定にむけての調査
c) 技術資料の整備(実際の適用のための手引き，事例集など)
・ 地震応答解析の各種手法の検討事例集
・ 部材の限界値の評価の資料集
・ 耐震診断・補強への取り組み
・ 国内外の事例の整備

d)　国際化への取り組み
　(第一歩として英文化など)
その結果，以下のような WG を立ち上げ，WG を中心に活動すること，本委員会は 3~4 ヶ月に一度程度開催することなどが承認された.

① 設計体系の見直し　(仮称：耐震設計法見直しWG)
　レベル 1 地震動の位置付けも含め，設計の考え方,耐震性能などに踏み込んで設計体系を見直す
② 性能設計審査　(仮称：設計審査WG)
　性能設計を審査，チェックする機関のあり方や設立について検討，提案する
③ 部材の限界値の設定評価に間する資料集作成　(仮称：限界値 WG)
　各種材料の限界値に関する最新の情報を集め提供する
④ 性能設計の参考書(技術資料作成) (仮称：技術資料 WG)
　地震工学委員会の各委員会の成果・活動報告をもとに性能設計の技術資料を作成する
⑤ ガイドラインメンテナンス
　耐震設計ガイドラインのメンテナンス(WG としてではなく幹事団)が担当）

6.今後の予定

次回委員会　平成 14 年 2 月 28 日(木)14:00~

以上

記録（三輪）